

朝鮮語一音節名詞の史的比較言語学的考察

『長田夏樹論述集（下）』第16章

（原載：『朝鮮学報』第39・40号，1966年4月）

Ramstedt、金沢庄三郎以来の比較研究、前間恭作、小倉進平以来の朝鮮語史研究を踏まえ、現代朝鮮語の一音節名詞について、他のアルタイ諸語との比較をも視野に入れて日朝両語間の対応・非対応を論じた論文である。参照される朝鮮語史資料は郷歌から『全一道人』にわたる。第1節「閉音節語と開音節語」では朝鮮語のCVC型が日本語のCV~CV・CV等の開音節語と対応しうること、第2節「朝鮮語と日本語の音節数」ではSwadeshの語彙調査表に基づき両言語の名詞基本語彙音節数の一般的傾向が論じられている。第3節「漢字音系語彙の図表」初声と韻の一覧表が示され、第4節「漢字語系語意の分類」では「身体・人倫…」の部門別に考察が加えられている。第4節で「兄 xjeñ」について「本来は固有の朝鮮語であって日本語の se に対応する語であった蓋然性がある」としている。

第5節「固有系語彙の図表」以降が本論文の中心をなす。『東雅臆度抄』とは異なり、声点にも言及が及ぶ。激音初声1音節去声の語が本来平音であったこと、濃音初声がCVCV->CCV->qCV-になったこと、朝鮮語の下降二重母音語がCVCV>CViの過程を経たこと等々が、先学の研究成果をも踏まえつつ論じられている。日朝語の「対応」とされている語形は例えば次の如くである。

「竹 *taka : *taxi:」、「坂 saka : *caxi」、「箍 taga : *thexi」、「蟹 kani : *keni」、「船 *funa : *peni」、「瓜 uri : *ori」、「腹 fara : *peri」、「鳥 tōri : *sari」、「後 *turix : siri」、「梨 ubara : *peri~*pere」、「浦 ura : *keri~*kere」、「綿 yufu : *soβym」、「頬 fofo : *spam<*ppam<*papam」、「桑 kufa : spoñ<*kpoñ<*kopoñ」、「糞 kuso : stoñ<*ktoñ<*kotoñ」、「緯 kase : ssi<*ksi<*k*esi~*kesse

第9節「終声分布の偏在」では一音節語の分布が -m, -l に偏在していることを述べ、Ramstedtの「春 pom<*pon」におけるdistantial assimilationの解釈を敷衍し、上述「桑 kufa : spoñ<*kpoñ<*kopoñ」、「糞 kuso : stoñ<*ktoñ<*kotoñ」の終声 -ñ も k- の同化とする。第10節の「R終声」ではRT, RD, RS, RZ, RG, Rゼロを分かち、それぞれ「蜂 fati : per」、「水 midu : myr」、「星 foši : pjer」、「雹 mižore : murui」、「脛 fagi : par」、「火 fi~fö : pyr」等を挙げている。

本論考は声点、音節偏向を考慮に入れた朝鮮語一音節語の比較言語学的研究の画期をなすものであるが、再構形の、なかでも第二音節の子音の恣意的設定は後の反論を引き起こすこととなる。

（伊藤英人）